

## 書道よもやま話

### 1. 書体について

#### ・楷書・行書・草書

漢字の主な字体は、線を一画ずつ丁寧に書く「楷書体」と、何本かの線を続けて書く「行書体」、さらに文字をくずした「草書体」があります。

「楷書体」は一番わかり易く読みやすい字体ですが、一画ずつ丁寧に書くため書く速度が遅いのが難点です。何本かの線を続けて書く「行書体」は書く速度が速く、字形も楷書体とほぼ同じなので、実用的な書体です。一方、さらに文字をくずした「草書体」は、書く速度は更に速くなりますが、字形が楷書体と全く異なるものも多く、またいくつもの崩し方がある字もあって読みづらい字形です。しかし、その多様性によってさまざまな表現が可能になるので、書道芸術作品には最もよく使われます。

楷・行・草書の三字体は中国の後漢時代末期から三国時代のころ、3世紀前半に成立したと考えられています。日本ではまだ弥生時代、文字を持っていなかったころの出来事です。

#### ・かな

かな(仮名)は日本独特の表音文字です。日本に漢字が伝えられたのは3世紀末頃とされています。そのころから中国の文化が日本に少しずつ伝わり、貴族階級を中心に漢字文化も徐々に発達しました。奈良時代には、遣唐使の派遣など中国文化の積極的な導入により、仏教の発展もあって写経も盛んに行なわれるようになるなど、文字文化はさまざまに発展しましたが、日本古来のことばを表す文字がないため日本語の言葉に良く似た音の漢字をあてて表記しました。これが「仮名文字」の始まりです。

平安時代になると、「仮名文字」は、書く速度をさらに速くするため漢字の草書体をくずして簡略化されました。この頃の仮名文字は、同じ音をいろいろな漢字のくずし字で表記しました。例えば「い」は「以」「伊」「意」「井」「移」などのくずし字がありました。

明治時代になると、全国民が文字を書けるように、いろは48文字すべての音の仮名文字の表記を一つに決めました。例えば「い」は必ず「以」のくずし字を用いることとし、これらの文字を「平仮名」と呼びました。これ以降、他のくずし字は「変体仮名」と呼ばれ、実用面では使用されなくなりましたが、芸術書道では平安時代の表記が受け継がれたため、これらの「変体仮名」も使用し、多様な表現が行なわれています。

#### ・隸書・篆書

漢字は象形文字から発展した表意文字で、成立当初の漢字は絵文字のような形でした。漢字の成立は殷王朝時代の紀元前14世紀頃といわれ、主に神事の儀式を記録するために亀の甲や獣骨に刻まれました。これを「甲骨文字」といいます。

殷から周の時代には文字数も増え、表現も多様化して、軍事記録などを銅器に刻むことが広く行なわれるようになりました。これを「金文」といいます。

紀元前3世紀、戦乱の世を統一し「秦国」を建設した始皇帝は、これまでまちまちであった漢字の表記を統一した新しい文字を制定しました。これを「小篆」といいます。「篆書」は「甲骨文字」や「金文」「小篆」などの総称です。

漢時代には「篆書」を簡略化し、縦線、横線のはっきりした「隸書体」が用いられるようになりました。「隸書体」は横線のハネなどが特徴的な楷書体に良く似た書体で、芸術書道に使われるほか、看板の文字など実用面でも良く用いられます。

#### ・近代詩文・前衛書

芸術として発展してきた書道は、古代中国や平安時代の文化を背景に発展してきたため、草書体や変体仮名など、一般の人には読めず馴染めない部分がありました。これに対し、近代詩や文章を、誰でも読める平易な漢字や平仮名だけを用いて表現しようとの考え方が起こり、「近代詩文」というジャンルが形成されました。

他方、「文字を書く」という従来の書道の考えから離れ、「文字表現」から開放された新しい感覚で墨と筆を使った芸術を表現する「前衛書」という新ジャンルも形成されています。